

特集：マリの活動
FOCUS ON MALINewsletter
October 2024

1. マリ事務所長 メッセージ

親愛なる SAA パートナーの皆様

本号では、SAA がマリで実施する最近の活動にフォーカスしてご紹介します。SAA マリ事務所の献身的な取り組みと、その活動を通じた地域社会の変化を感じていただけますと幸いです。

マリでは、9 つの生産・収穫後処理・取引／研修センター (Production and Post-Harvest Trading/Training Center: PHTC) を拠点とし、SAA の戦略柱である環境再生型農業 (Regenerative Agriculture: RA) の普及を推進しています。RA の実践は、土壌の健全性を高め、気候変動に対する強靱性を高めると同時に、持続可能な農業の基盤を築いています。また、国内の大学や専門学校においては農業普及分野における実践的なカリキュラムの構築支援を通じて、次世代の農業普及員や農家の担い手を育成しています。

さらに、農業を収益性のあるビジネスに変革する支援も重要です。農家に対するキャパシティ・ビルディング、リソースの提供、パートナーシップの強化を通じて、マーケットや金融機関へのアクセスを確保し、安定した所得の確保と生活水準の向上を支援しています。

また、栄養改善の領域も、SAA の活動における重要な柱です。食料安全保障プログラムや栄養教育の推進を地域社会と連携して進め、マリのコミュニティ全体の健康と福祉の向上に貢献しています。

10 月 14、15 日にナイジェリアの首都アブジャで開催された SAA 理事会およびマネジメント会議では、SAA の 5 年戦略 (2021-2025) の成果と教訓を振り返り、次の戦略に向けたロードマップが議論されました。また、ナサラワ州への訪問とアブドゥライ・スーレ州知事との会談を通じ、ナイジェリアにおける農業改革において SAA が果たすべき役割を改めて確認することができました。

私たちのマリにおける活動は、日本財団、日本外務省、在ニジェールオランダ大使館からの支援によって可能になりました。私たちは力を合わせ、持続可能な発展が根付き、豊かな未来を実現するために引き続き尽力してまいります。今後も皆様の変わらぬご支援をいただければ、さらに多くの目標を達成できると確信しています。

共にこの道を歩んでくださる皆様に、心より感謝申し上げます。

Dr. Hamado Tapsoba

SAA マリ事務所長

※本ニュースレターは、英語版オリジナル(URL: <https://saa-safe.org/newsletter/october-2024/>)の翻訳版となります。

本号の内容

1. SAA マリ事務所長メッセージ... 1

2. 現地からの声... 2

女性のエンパワメント：マリの 10 農村、強化小麦粉で子どもの栄養改善に取り組む

M'Pessoba 農業大学と地域に根ざした農業技術の育成

農業協同組合の成長を支援する SAA のビジネス開発サービス：ISSD-Sahel プロジェクトの成果

地元の材料で液体肥料を作成：サマンコ PHTC と地域農家の取り組み

3. 活動報告... 5

土壌侵食を防ぐための休閑帯活用の取り組み

生産・収穫後処理・取引／研修センターを拠点に家族の健康を支える家庭菜園を設置

トロコロボグ女性協同組合、グループ貯蓄活動で経済的な飛躍を達成

地元の伝統料理の魅力を保ちながら、より豊かでバランスのとれた食事を学ぶ

4. ニュース... 7

オランダの種子生産視察で新たな学びとパートナーシップを構築

5. その他の国からの活動報告／ニュース... 7

アフリカ・フードシステム・フォーラム (AFSF) 2024：サイドイベントと展示ブースで成果を発信

イスラム開発銀行との連携強化：ナイジェリア各州および西アフリカへの更なる展開に意欲

SAA、2024 年 GAP レポートでエチオピアの成功事例を発表

エチオピア ティグライ州メケレ大学における地域課題解決実践研究を視察

SAA ウガンダ事務所、コミュニティ普及員モデルを事業化へ転換

ウガンダにおける栄養とジェンダー意識向上を通じた地域社会のエンパワメント

ウガンダ ウェンゾリ地域における持続可能な農業とデジタル普及強化

2. 現地からの声

女性のエンパワメント：マリの 10 農村、強化小麦粉で子どもの栄養改善に取り組む



マリのクリコロ州ナファジ村では、ナシラ・ケイタさんと BENKADI 協同組合の仲間たちが、地元で手に入る食材を活用し、家族の栄養改善に向けた取り組みを実践しています。SAA は、日本財団の支援を受け、2024 年 5 月に 2 回の栄養研修を行い、サマンコ PHTC が支援する 10 村から集まった 40 人の女性が、地元の食材を活用した栄養価の高い料理を学びました。

この研修は付加価値創出の専門家であるラマトゥ・シディベ氏の指導のもと、ソルガム、トウジンビエ、フォニオ（西アフリカのイネ科穀物）、ササゲ、落花生、バオバブ果肉などの地元食材から、栄養価の高い粉を製造する方法が実習されました。本アプローチは、家庭で手に入る食材を活用し、子どもと家族の食事の多様性と栄養バランスの向上を目的としています。

研修は理論と実践の両輪で構成され、理論では衛生管理や食料の品質など食品安全に関する基礎知識を学びまし

た。実践では、学んだ基準に基づき栄養強化小麦粉を製造し、家庭での食事改善にすぐに取り入れることができる知識と技術を習得しました。

参加者は同研修を栄養安全保障の向上に向けた重要な一歩と捉えており、ケイタさんも「この研修のおかげで、家族により良い食事を提供できるようになりました。健康にも良い影響を与えるでしょう」と話しました。

SAA は、地域の資源を活用し、持続可能な生産方法を促進することで、食料不安に直面するコミュニティの回復力を高め、子どもと家族の栄養不良改善を支援しています。

サマンコ PHTC での栄養研修（実践編の様子）



M'Pessoba 農業大学と地域に根ざした農業技術の育成

SAA マリ事務所と提携する M'Pessoba 農業大学は、地域の農業普及員のキャパシティ・ビルディングにおいて重要な役割を果たしています。同大学は、綿花生産の拠点であるコウティアラから約 40km の場所に位置し、SAA の支援を受けて展開される「野菜ビジネスユニット」は広く認知されています。この「ベジタブルガーデン」は、地域の農業課題に取り組むとともに、食料安全保障の向上にも貢献しています。

1ha の農地に設置されたこの「ベジタブルガーデン」には、点滴灌漑システムや貯水池など、地域の気候に適した農業技術が導入されています。これにより、水資源が限られた地域でもトマト、ナス、タマネギ、ハーブといった作物が安定して生産され、長期的な農業生産性の向上が期待されています。

大学での研修プログラムでは、灌漑システムの運用、堆肥やマルチングを用いた土壌肥沃度の改善、高品質種子の生産、病害虫の統合管理といった最新の農業技術を実践的に学びます。これにより、若い農業普及員や地元生産者が技術を体験的に習得し、自身の農場で応用できるようサポートしています。

さらに、同大学は地元市場へ新鮮な野菜を安定供給することで、これまで穀物中心だった地域の食生活に多様性をもたらし、家庭の栄養状態の向上にも貢献しています。野菜の販売から得られる収益は、アグリビジネスの起業支援にもつながり、地域経済の活性化に貢献しています。

農業協同組合の成長を支援する SAA のビジネス開発サービス：ISSD-Sahel プロジェクトの成果

SAA マリ事務所が推進する「ビジネス開発サービス（BDS）イニシアティブ」は、国際肥料開発センター（IFDC）、国際半乾燥熱帯作物研究所（ICRISAT）、オランダ王立熱帯研究所（KIT）と協力して推進する「サヘル地域における総合的種子セクター開発（ISSD-Sahel プロジェクト）」の一環として実施されています。この取り組みにより、21 の協同組合に所属する約 570 人の農家（半数が女性）が、銀行やマイクロファイナンス機関の厳

地元の普及員や農家が共に学ぶ M'Pessoba 農業大学「ベジタブルガーデン」



しい担保要件を克服し、資金調達の機会を得られるようになりました。

SAA の BDS モデルは、協同組合の経営力向上と起業家精神の育成を支援する包括的なプログラムです。CREFOD（開発のための研究・研修地域センター）と連携し、協同組合リーダーに対して事業管理や融資管理、ビジネスプラン策定など、アグリビジネスに不可欠なスキルを提供しています。

資金調達に成功したマリの小規模農家協同組合のメンバー



この取り組みにより、120 件のビジネスプランがマイクロファイナンス機関（Nyèsigiso など）に提出され、協同組合間の相互保証制度を活用することで、複数の協同組合が無担保で融資を受けられるようになりました。SAA による個別指導のもと、農家たちは効果的なビジネスプランの作成と融資交渉の技術を身につけ、物理的な担保を必要としない資金調達を実現しています。



即効性のある液体肥料づくりに取り組むマリの農家

これまでに、21 の協同組合に対して約 5.7 億 CFA フラン（約 96,624 米ドル）の融資が実行されました。SAA の BDS モデルは、キャパシティ・ビルディングと金融アクセスの向上を融合させ、持続可能でインクルーシブな農業セクターの発展を促進するものとして、ISSD-Sahel プロジェクトの枠組みで着実な成果を挙げています。

地元の材料で液体肥料を作成：サマンコ PHTC と地域農家の取り組み

サマンコの生産・収穫後処理・取引／研修センター（PHTC）が支援する 10 村では、美しい菜園が次々と広がり、SAA とパートナーによる持続可能な農業技術の成果が表れています。2024 年 2 月 26 日～3 月 17 日、日本外務省からの NGO 連携無償資金による「農業協同組合強化を通じた生計向上・栄養改善プロジェクト（LINSAC）」の一環として、持続可能な野菜栽培技術の研修が行われました。

この取り組みには、ナファジ、サマレ、バランドゥグー、コースレ・コロ、ジョリバ、ダラカナ、カマレ・カケレ、カマレ・ソバ、ファラバ、ンテケドの各村から 90 人の農家（半数が女性）が参加しました。各村には地下水を汲み上げるためのボーリング井戸と 5 m³の貯水タンクを備えた 0.5 ヘクタールの農場が整備され、フェンスで囲まれた安定した水源を確保できる環境が整いました。

研修では、参加者が地元で調達可能な材料を使った液体肥料の作成技術を学びました。この液体肥料は、10～15 日で完成するため、迅速に野菜栽培に活用でき、栄養状態を効果的に改善することが可能です。

液体肥料は、200L の樽に、家畜の糞や鶏糞などの有機肥料一輪車 1 杯、ニームの葉などの緑肥一輪車 1 杯、灰 10kg、水 160L を加えて混ぜ合わせ、樽をビニールで覆い 15 日間発酵させて完成させます。完成した肥料は、ナス、トマト、ピーマンなどの作物に利用されます。

この環境に優しい液体肥料技術は、農家の生産性向上に寄与するだけでなく、低コストで持続可能な農業アプローチとして注目されています。本技術導入により、収穫量の増加と地域農業の持続可能性が高まり、地域の生活向上と食料安全保障の強化にも大きく貢献しています。

3. 活動報告

土壌侵食を防ぐための休閑帯活用の取り組み



SAA は、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）と連携して推進する「TERRA Africa プロジェクト」の一環として、2024 年雨季のサヘル地域において、風雨による土壌侵食対策として休閑帯を活用した実証圃場を設けました。この取り組みは、劣化した農地の回復と生産性向上を目指しています。休閑帯は带状の休閑地のことで、播種と除草を行わないことで形成される雑草などの植生で、農家に新たな経済負担と労働負担をかけません。

セグー州のダクマニ PHTC にある 10 村には、合計 12 の実証圃場が設置されました。各サイトは、農家リーダーによって管理され、適切な耕作方法、種まき、鳥害対策などが行われます。

各圃場は 55×50m の広さで、耕作地と休耕地に分けられています。毎年、最初の休閑帯は風によって流された土壌を捕える役割を果たすため東へ移動させ、その移動した土壌は次年度以降に活用する土壌として回復されます。この自然に基づいた手法は、侵食の進行を防ぐだけでなく、長期的に土壌健全性と農業生産性の向上を促進します。

生産・収穫後処理・取引／研修センターを拠点に家族の健康を支える家庭菜園を設置



家庭菜園イニシアティブ研修の様子

農村地域の栄養不良解消に向け、SAA は家庭菜園イニシアティブを開始し、国内で支援してきた生産・収穫後処理・取引／研修センター（PHTC）につき、100 の家庭菜園を設けることを目標にしています。このイニシアティブは、現在、9 つの PHTC のうち 5 つで始動しており、各村で 10 世帯がアマランサスやコウゾの種、オレンジ・スイートポテトの苗など栄養価の高い作物の栽培資材を受け取りました。

SAA は、農家に対して圃場の準備や植え床の作り方、種まき、生け垣を活用した野生動物対策などを指導しました。また、葉物野菜の害虫対策、サツマイモを高畝に植え付ける利点なども説明されました。

家庭菜園づくりに参加する多くの女性は、雨季が過ぎても野菜を収穫できることで家庭の食費を削減できると期待しています。同取り組みは食料の安全保障を強化するとともに、女性の力を引き出し、家族の栄養改善に必要な技術とリソースを提供しています。

トロコロボウグ女性協同組合、グループ貯蓄活動で経済的な飛躍を達成

ディディエンニ PHTC のトロコロボウグ村では、SAA の支援を受けて設立されたグループ貯蓄組合（CSIA）に、87 人の女性が参加し、経済的自立への道を切り拓いています。グループのメンバーは毎週集まる機会を設け、同組合基金に貢献すると同時に、月利 5% でお互いに資金を貸し合う仕組みを整えています。この仕組みを通じて、各農家は石鹸作り、香辛料販売、羊の肥育、小規模な家禽の飼育など、収入を生み出す活動に資金を充てることができています。

また、グループの安定した活動と SAA によるビジネスプラン開発の支援が功を奏し、Revenue Growth Micro-Institution Network（RMCR）から 100 万 CFA フラン（約 1,686 米ドル）の融資を受けることができました。本融資により、落花生栽培（1ha）に必要な 10 万 CFA フラン（約 169 米ドル）相当の資材の購入が可能になり、安定した収穫高（920kg 程度）を見込んでいます。落花生の販売は、約 73 万 5,200 CFA フラン（約 1,240 米ドル）の収益が期待できるため、組合の資金基盤は大幅に改善される見通しです。

グループ貯蓄に取り組むトロコロボウ女性協同組合



地元の伝統料理の魅力を保ちながら、より豊かでバランスのとれた食事を学ぶ



ディディエンニ生産・収穫後処理・取引／研修センター（PHTC）にて、SAAは、栄養価を高めた伝統的な地元料理によるバランスのとれた食事をテーマに研修を実施しました。本研修は、農業普及員や協同組合のリーダーが、地元の料理文化を大切にしながらも、栄養価を向上させる知識を身につけることを目的としています。

研修は、理論と実践の両輪で構成され、理論では、食品群や食生活に焦点を当て、栄養の基礎知識や疾患予防について学びました。実践では、油の使用を最小限に抑えた落花生ソースを使用し、メイズ（トウモロコシ）やコメといった伝統料理を栄養豊かに調理する方法が紹介されまし

た。また、肉や魚、トマトなど栄養価の高い食材を使い、よりバランスのとれた食事に仕上げました。

本アプローチは、地元の伝統料理の魅力を保ちつつ、より健康的な食事づくりに貢献しています。また、農業普及員への継続的な啓発プログラムの必要性や、今後の取り組みに保健医療従事者を関与させる重要性も示されました。



4. ニュース

オランダの種子生産視察で新たな学びとパートナーシップを構築



2024年6月2日～8日、マリの種苗会社（SOGEB、SODIAF、SOPROSA、AGRISAHEL、CULTISAIN SAHEL、ZAMOHO）や協同組合（ULPC、COPROSEM）、種子研究所（LABOSEM）の代表らが、ISSD Sahel プロジェクトの一環でオランダを訪問しました。ジャガイモなどの野菜の種苗生産現場を視察し、同時に新たなパートナーシップの可能性を模索しました。

訪問中、参加者はオランダの主要種苗企業である Bakker Brothers、Bejo Zaden、HZPC を訪問し、種子生産の最新技術や品質管理について学びました。こうした交流は、オランダの先進的な農業技術やビジネスモデルを吸収するとともに、新たなビジネス機会や連携の可能性を探る貴重な場となりました。

今回の視察により、マリの種子業界はより広範なネットワークと実践知識を得ることで、今後、サヘル地域の種子産業の成長と発展に向けた取り組みをさらに推進することが期待されます。

5. その他の国の活動報告/ニュース

アフリカ・フードシステム・フォーラム (AFSF) 2024：サイドイベントと展示ブース

2024年9月2日～6日、アフリカ・フードシステム・フォーラム (AFSF) 年次サミットがルワンダ国キガリで開催され、SAA はアフリカのフードシステム変革に貢献する大規模なイニシアティブに焦点を当てたサイドイベントを開催するとともに、展示ブースで活動の成果を発信しま

した。

サイドイベントは、イスラム開発銀行、AGRA ナイジェリア、アフリカ開発銀行、BASICS-II と共同で実施し、プロジェクトから得られた知見が共有されました。カノ州農牧畜開発プロジェクト (KSADP)、TAAT ClearingHouse、BASICS-II など、さまざまな現場で活躍する第一線のリーダーたちがアフリカの農業を変革する成功モデルを発表しました。

SAA の北中理事長は、これらのイニシアティブがもたらす農業変革の可能性を強調し、また、ナイジェリアから参加した、アバ・カビル・ユセフ カノ州知事は、SAA が州政府と連携して実施する KSADP を高く評価しました。

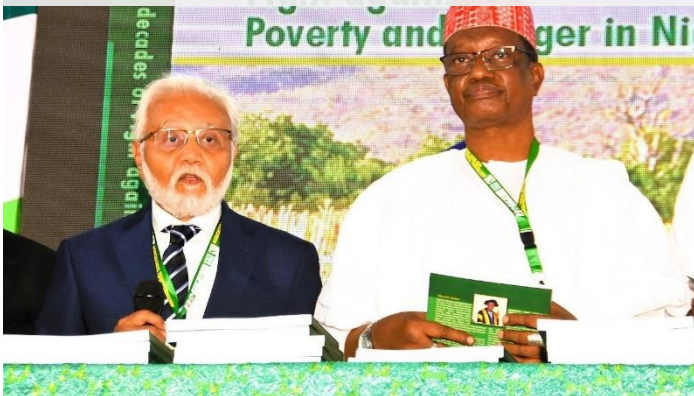
SAA のデジタル展示ブースは、政策立案者や政府関係者など農業開発分野のさまざまな来場者が訪れ、ネットワーク構築や知識の共有、パートナーシップ連携、SAA の取り組みを紹介するプラットフォームとして大きな役割を果たしました。

*全文はこちら：<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=1&vid=611&lng=jpn>



イスラム開発銀行との連携強化：ナイジェリア各州および西アフリカへの更なる展開に意欲

KSADP 会合にて、SAA のアミット・ロイ会長（左）とカノ州のアミヌ・グワルゾ副知事（右）



2024 年 10 月 7 日～8 日、ナイジェリア カノ州にて、イスラム開発銀行が資金提供し、SAA が実施するイニシアティブ「カノ州農牧畜開発プロジェクト（KSADP）」の成果発表を目的としたワークショップが開催され、ナイジェリア、ベナン、ギニア、ニジェール、コートジボワール、シエラレオネから政府関係者をはじめとする多数の農業関係者が参加しました。

本プロジェクトは、イスラム開発銀行がカノ州政府に資金提供する 9,000 万ドルのプロジェクトで、州内 44 の地方自治体における小規模農業の変容とアグリビジネスの開発を目的としています。SAA ナイジェリア事務所は、2,131 万ドルの資金を受け、農業資材へのアクセス、気候適応型の農業、市場アクセスの改善などを通じた農業生産性の向上に取り組んできました。

ワークショップは、ヴィタリス・オルテス氏がオルセグン・オバサンジョ前大統領の代理として議長を務め、ゴンベ州、ジガワ州、カツィナ州、ベヌエ州へのプロジェクト展開の可能性が検討されました。ゴンベ州とジガワ州は SAA ナイジェリア事務所と両州の農業開発促進を目的とした 10 年間のパートナーシップ MoU を更新しました。



SAA ナイジェリア事務所のゴッドウィン・アサー所長は、KSADP モデルの導入に多数の地域が意欲的であることを評価しました。また、日本財団の笹川会長と SAA の北中理事長は、ナイジェリア政府およびカノ州政府からの継続的な支援に対する感謝の意を表しました。



* 全文はこちら: <https://www.saa-safe.org/news.php?nt=1&vid=616&lng=jpn>

SAA、2024 年 GAP レポートでエチオピアの成功事例を発表



10 月 3 日、SAA はバージニア工科大学が主導する GAP (Global Agricultural Productivity) イニシアティブの「2024 GAP Report」発表イベントに参加しました。同レポートでは、エチオピアのアムハラ州、オロミア州、ティグライ州における 25 地区・115 村（ケベレ）で実施された SAA の農業資材販売プログラムが成功事例として紹介され、地域の生活水準向上に寄与したことが評価されています。

10 万 5,588 米ドルの資金提供を受け、SAA は 26 の農業資材販売グループを支援し、これまで 61,868 人以上の農家のキャパシティ・ビルディングと農業資材の供給を行ってきました。本プログラムは、テフで 57%、小麦で 23%、メイズ（トウモロコシ）で 56%の収量増加と農家の市場アクセスを改善し、年間 63 万 6,148 米ドルの売上を実現しました。

また、SAA は本イベントでオンライン展示ブースを設け、活動成果を共有するとともに、パートナーシップ構築やアフリカ農業の未来に向けた議論の場を提供しました。今後も SAA は、GAP イニシアティブと協力し、アフリカのフードシステム変革と小規模農家の生活向上を目指した取り組みを継続していきます。

エチオピア ティグライ州メケレ大学における地域課題解決実践研究を視察



2024 年 8 月、SAA は、ティグライ州メケレ大学および州農業局とともに、同大学の学生が実施する地域課題解決実践研究（SEP）の現場を視察しました。

SEP は、笹川アフリカ農業普及教育基金（SAFE）プログラムの一環として実施される課題解決型のフィールドワーク研究で、エチオピアの大学／農業学校と提携し、1996 年にスタートしました。メケレ大学は 2012 年に同プログラムに参画し、これまで、地域の農業セクターに 374

人の卒業生を輩出しています。現在、33 人の SEP 学生（67%が女性）がティグライ州の 12 地区にまたがる 17 村（kebele）でプロジェクトを実施しています。

視察は、小麦、大麦、テフ、メイズ、ソルガムなどの主要作物を対象に、170 人の農家が参加する 17 プロジェクトが対象となりました。特に評価に値するのが、母親でもある多くの女性たちの献身的な取り組みで、エチオピア北部の紛争の余波にもかかわらず活動が続け、地域の農業復興に貢献しようとするそのたくましい姿です。

視察の結果、畝立て機や収穫機の導入による農作業の効率化が推奨され、メケレ大学農学部さらなる強化を図るために、追加の教材が提供されています。

*全文はこちら：<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=612&lng=jpn>

SAA ウガンダ事務所、コミュニティ普及員モデルを事業化へ転換

SAA ウガンダ事務所が支援するコミュニティ普及員（CBF）は、これまでの固定給制から、提供するサービスに応じた対価を得る収益化モデルへ移行しました。この新たな「商業型コミュニティ普及員（CCBF）」モデルは、公的普及員の少ない同国において、農業起業家の育成と普及サービスの品質向上を通じ、地域農業の持続可能な発展を目指す取り組みです。

初代 CCBF への研修は 2024 年 8 月に実施され、特に技術に優れた農家や大規模農地を所有する農家を対象としたアプローチが強調され、14 の収益性あるビジネスサービ



地域の農業課題解決に取り組む女性普及員

「商業型コミュニティ普及員（CCBF）」モデル研修に集まった普及員



スが提示されました。また、農村部の若者の雇用創出やバリューチェーン全体でのサービス拡大も議題に上がり、地域のワンストップセンター（OSCA）や協同組合が資金面での支援を提供する役割を果たすことが示されました。今後、OSCA を中心に、CCBF が必要な能力を備えるための研修やリソースへのアクセス支援、新たな市場ニーズの開拓、契約締結および履行能力の向上に注力していきます。



* 全文はこちら：<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=615&lng=jpn>

ウガンダにおける栄養とジェンダー意識向上を通じた地域社会のエンパワメント

2024 年初頭、SAA は、栄養および食料の安全保障を目的に、ウガンダの各地域で栄養とジェンダーに関する意識向上研修を実施しました。特に、5 歳未満の子どもや出産

可能年齢にある女性に大きな影響を与える栄養不良や発育阻害の課題に重点が置かれました。

本研修は、ワンストップ栄養モデルホーム（One-stop Nutrition Model Homes）を拠点に行われ、参加者は栄養価の高い食材の栽培や調理方法、また、複合粉（栄養価の高い食材を組み合わせたミックス粉）の販売といった小規模ビジネスの立ち上げも紹介されました。

ジェンダー平等に重点が置かれ、農業と栄養における責任を男女で分担し、共に協力して健康的な家庭を築くことが奨励されました。このアプローチは、各家庭が栄養に関する意識を高め、生活習慣の改善を通じて、地域社会全体の活性化とより良い栄養状態の実現を目指し進められています。

栄養価の高い食材や調理法を学ぶ参加者たち



栄養とジェンダーの意識向上研修（ウガンダ）



*全文はこちら：<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=613&lng=jpn>

ウガンダ ルウェンゾリ地域における持続可能な農業とデジタル普及強化

2024年9月22日～10月2日、SAAはウガンダ国フォートポータルに位置するマウンテン・オブ・ザ・ムーン大学と連携し、ルウェンゾリ地域の持続可能な農業を推進するイニシアティブ「ルウェンゾリ・アグロエコロジープロジェクト（AEP11）」のもと研修を実施しました。同プロジェクトはオーストラリア政府の資金提供を受け、学生、教員、普及員や農家を対象に、研究開発、キャパシティ・ビルディング、情報通信技術（ICT）の融合による持続可能な農業を目指しています。デジタルを活用した農業普及を大学のカリキュラムに統合し、研究の発展と農業普

及サービスの改善が実施されています。

研修では、「Jaguza」や「M-Omulimisa」などの農業／畜産支援アプリが紹介され、小規模な機械化による生産効率向上とコスト削減などを学びました。また、持続可能な農業の研修動画作成のため、カムウェンゲ県の農家の訪問も行われました。

本イニシアティブは、ルウェンゾリ地域の人々が農業の改良技術と知識を身に付け、同地域の生態系のバランスを守りながら、生活の質を向上させることを目指しています。



*全文はこちら：<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=613&lng=jpn>

修士課程の学生たちと特別講義を担当したSAA職員との集合写真

